

論文名：農村の民家における多機能空間(アダノマ)の構造と変遷に関する研究

A Study on Special Organization and Historical Trends of Multi-functional Room (ADANOMA) in Japanese Rural Village Folk Dwellings

佐々野好継

農村における民家の間取りは、農村固有の文化、その土地の建築技術や材料、および生産・生活様式などの関わりの中で成立し変遷してきた。これまでの農家および町屋の民家に関する研究では、江戸時代からの間取りの型や架構の変遷については明らかにされてきた。しかし、農村の民家における間取りの型の構成原理や、部屋相互間の関係および機能については明らかにされていない。

本論文の目的は、近世民家の平面形式が残されてきた長崎県五島市の農村7集落における伝統的民家の「四つ間型（アダノマ、ナイショ、ナンド、ザシキ）」から近代の中廊下型への変遷過程における住居の空間を構成する原理と、土間の上がり口の一室である「アダノマ」からみた部屋相互間の関係の構造と機能および変遷を実証的に明らかにすることである。

この研究の調査手法は、主として現地調査で、五島市の「浜町」、「吉田」、「崎山」、「黒蔵」、「半泊」、「堂崎」、「浦頭」の農村7集落を実施した。「浜町」、「吉田」、「浦頭」は無作為抽出の標本調査で、「崎山」、「黒蔵」、「半泊」、「堂崎」は全数調査をした。調査期間は1984年から1986年の間で、大正から昭和までの建築年代の住居158戸を採取した。調査内容は、屋敷の配置図、住居の平面図（復元図を含む）、住居内設置物（床の間・仏壇・神棚）などであり、住居の典型的な事例は写真撮影および実測調査を実施した。また、聞き取り調査も実施し、家族構成や職業、部屋の呼び名とその意味、日常生活（団欒・食事・睡眠など）や非日常（冠婚葬祭・祭りなど）の使われ方などを実施した。

本論文の結論を以下に示す。

- (1) 五島市における四つ間型（「アダノマ」、「ナイショ」、「ナンド」、「ザシキ」）は、「ザシキ」を「上」、土間を「下」とする「上と下」の空間軸と、「アダノマ」を「表」、「ナイショ」を「裏」とする空間軸が存在し、この2つの空間軸は大黒柱で直交し、4領域を構成していることが明らかになった。さらに、この4領域には、「ザシキ」を「オク」、「アダノマ」を「クチ」とする「クチとオク」の空間軸が存在していることも明らかになった。なお、四つ間型の構成原理は、農村民家の広間型や近代の中廊下型においても同じであることが明らかになった。
- (2) 五島市における「アダノマ」の変遷は、上がり口と「ナンド」で構成されている二

間取りの上がり口（非日常・接客・団欒）が、アダ（接客・団欒）と「ザシキ（床の間）」に分化し、さらに、アダが「アダノマ（日常的接客：神棚）」と「ナイショ（団欒：仏壇）」に分化して、成立してきたことを明らかにした。

(3) 五島市における民家の「アダノマ」は、江戸時代中期から存続していたが、1970年代頃から建築された「中廊下型」においては、その呼称が消滅したこと、およびその中廊下とそれぞれの部屋が直結する空間構造に変遷してきたことを明らかにした。

本論文の内容は、以下のとおりである。

第1章は、本論文の歴史的背景と位置、目的、および論文の構成について示した。

第2章は、長崎県五島市の7集落における「四つ間型」と「中廊下型」を比較分析し、住居の型の構成原理を明らかにした。

第3章は、五島市における伝統的な四つ間型の特徴である「アダノマ」を中心とする部屋相互間の関係と機能および変遷について調査した結果、日常的接客空間である「アダノマ」は、「ナイショ」と「ザシキ」に隣接し、「ナンド」とは分離した住空間の構造であることを明らかにした。さらに、島根県日南町、岡山県川上村、広島県東城町の民家における「アダノマ」と比較し、五島市の「アダノマ」は「ナイショ」と対になり存在していることが特徴であることを明らかにした。

第4章は、「アダノマ」と対になっている「ナイショ」は、大分市、水上市（岩手県）、徳島市の民家の「ナイショ」と異なり、料理の場所として機能していたことを明らかにした。

第5章は、五島市に1970年以降建築された「中廊下型」を、「四つ間型」と比較調査分析した結果、「ザシキ」を「オク」、「ツギノマ」を「クチ」とする「クチとオク」の空間軸は、継承されていることが明らかになった。さらに、福井県名田庄村、大分県野津町、宮崎県五ヶ瀬町の「中廊下型」との比較を行い、五島市の「中廊下型」は、右カギ型中廊下を特徴にしていることが明らかになった。

第6章は、五島市における住居の空間を外部との連結の視点から調査・分析した結果、住居の空間は、土間や中廊下の非単位空間の「空」と、単位空間の「間」（出入り口が2以上の部屋）、および「室」（出入り口が1つ部屋）から構成されていることが明らかになった。

第7章は、第2章から第6章までのまとめに基づいた結論である。